

第3次静岡市環境基本計画について

資料1

基本方針

人と自然が共生し、将来にわたり
豊かな営みを続けられるまちの実現

取組方針1

経済・社会・環境の三側面の
好循環を生み出す地域脱炭
素の基盤整備を進めます

【環境目標】

- 01 省エネルギーの推進
- 02 再生可能エネルギーの拡大
- 03 エネルギーの高度利用化
- 04 気候変動への適応

取組方針2

循環型社会を目指した
廃棄物政策を推進します

【環境目標】

- 05 廃棄物の減量に向けた協働の推進
- 06 安定的な廃棄物処理体制の確保

取組方針3

生物多様性への
理解・浸透を図り、
保全・再生を拡大します

【環境目標】

- 07 人と生きものが共生するまちづくり
- 08 自然を身近に感じ、親しむまちづくり
- 09 環境への関心・関与を継続するまちづくり
- 10 生物多様性に配慮したまちづくり

取組方針4

住み良さを実感できる
生活環境をつくります

【環境目標】

- 11 安心安全な生活環境の確保と充実
- 12 良質な水環境の保全
- 13 緑あふれる美しいまちの創出
- 14 歴史・文化とふれあう機会の充実

取組方針5

環境教育を通じて、
環境活動の輪を広げます

【環境目標】

- 15 環境教育の活動支援と次の担い手の育成
- 16 各主体の連携・協働の創出・強化

2025年度(令和7年度)環境指標の進捗状況(新指標)

◎…達成(最終目標) ○…達成見込み
△…要調整 ×…達成困難 -…中止

分野	No.	指標	基準値 (2021年度)	中間目標 (2026年度)	最終目標 (2030年度)	2024年度		2025年度		備考 (評価理由・増減要因・今後の方向性など)
						現状値	達成状況	現状値	達成状況	
取組方針1	①	温室効果ガス排出量の削減率(2013年度比)	削減 14.3% (2020年度実績)	26.0%	51.0%	15.4% (2022年度実績)	○	25.2% (2023年度実績)	△	2023年度実績は25.2%削減となり、中間目標に近づいているが、2030年度目標達成にはさらなる削減対策の強化が必要である。今後は、部門別分析を踏まえ、産業・運輸部門を中心に取組を強化する。
	②	市内の電力消費量に対する市内の再生可能エネルギーの発電量の割合	向上 25.2%	33.0%	50.0%	28.1%	○	28.0%	△	再生可能エネルギーの導入量は増加しているものの、電力消費量の増加により割合は横ばいで推移している。今後は、再生可能エネルギーの導入拡大と省エネルギーの推進を図る。
	③	次世代自動車(EV・PHV・FCV)の普及台数	向上 2,054台	24,000台	78,000台	3,700台	△	調査中		2024年度実績は3,700台にとどまり、目標達成には更なる普及拡大が必要である。今後は、充電インフラの整備促進や支援制度の活用を図るとともに、公用車での導入に加え、市民及び事業者による次世代自動車への転換を促進する。
	④	市民の気候変動への「適応策」の認知度	向上 25.3%	32.0%	40.0%	23.0%	○	35.0%	○	適応策の認知度は増加傾向にあるため、引き続き熱中症対策など比較的市民の関心の高い取組と絡めて情報発信していくことで、適応策の認知度を高めていく。
取組方針2	①	一人1日当たりのごみ総排出量	削減 928g/人・日 (2019年)	836g/人・日	783g/人・日	820g/人・日	○	801g/人・日	○	計画通りの進捗である。今後、食品ロス、生ごみの削減に向けた取組の強化、プラスチックごみの分別回収などの施策の実施により、ごみの減量化を更に進めていく。2030年度までに目標を達成する見込みである。
	②	一人1日当たりの家庭ごみ総排出量	削減 661g/人・日 (2019年)	590g/人・日	549g/人・日	582g/人・日	○	571g/人・日	○	計画通りの進捗である。今後、食品ロス、生ごみの削減に向けた取組の強化、プラスチックごみの分別回収などの施策の実施により、ごみの減量化を更に進めていく。2030年度までに目標を達成する見込みである。
	③	事業系ごみの総排出量(総量)	削減 68,272t	60,017t	55,300t	58,223t	○	56,041t	○	計画通りの進捗である。今後、一般廃棄物多量排出事業者に対するごみの減量化に関する指導を実施していく。2030年度までに目標を達成する見込みである。
取組方針3	①	南アルプスの主要地域の高山植物種数	維持 37種 (2022年)	37種	37種	40種	◎	35種	○	千枚小屋周辺防衛柵内の高山植物種数は、調査時期の違いにより多少の差異が見られるが、35種から40種の間で安定して確認できている。
	②	竹破砕機の延べ貸出回数	向上 76回 (2019-2021年平均)	80回	80回	75回	○	86回	◎	老朽化した破砕機を更新したことで不具合を起こすことが減少し、年間を通じて安定して貸し出すことができた。今後も、耐用年数を過ぎた機械から順次更新予定。
	③	河川環境アドプトプログラムの登録団体の延べ活動回数	向上 69回 (2019-2021年平均)	100回	100回	75回	△	68回	△	猛暑や天候不良による活動機会の減少や、活動開始当初と比較して河川のごみが減少したことに等しい。延べ活動回数の減少が見られる。今後は、活動の担い手が少ない区間への移動や、ゴミ拾い以外の河川美化活動を提案し、意欲のある団体の活動継続をサポートする。
	④	水生生物調査(水のおまわりさん)の参加者数	向上 1,177名 (2019-2021年平均)	1,200名	1,200名	655名	△	1,102名	○	学校単位の大規模団体の減少や、夏の猛暑の影響で参加者数が減少していたが、2025(令和7)年度は、過去に応募があった団体に周知を行うとともに、活動期間を10月末から11月末に延長したことで参加者数が回復した。
取組方針4	①	事業者の公害法令順守率	向上 91.8%	92.4%	93.0%	96.4%	◎	96.6%	◎	計画を上回る進捗である。立入調査対象の全事業所に計画的かつ定期的に立入調査を実施することにより、事業者へ法令順守徹底の働きかけを行うことができた。引き続き法令順守率の向上を目指した取組を行っている。
	②	生活排水処理率	向上 86.4%	90.1%	92.6%	88.9%	○	89.4%	○	生活排水処理率は、前年比+0.5ポイントかつ2025年度目標(89.4%)を達成し、最終目標に向けて順調に推移していることから、達成見込みとした。
	③	市民一人当たりの都市公園面積(都市計画区域)	向上 7.0㎡	7.2㎡	7.4㎡	7.36㎡	○	7.45㎡	◎	新規公園開設や供用区域の増により、市民一人当たりの都市公園面積は増となった。
	④	静岡市は歴史・伝統文化や地域の魅力が感じられるまちだと思う人の割合	向上 58.9% (2022年)	66.0%	70.0%	-	○	58.1%	△	市内には文化財や歴史資源は多く存在するが、市民がその魅力を身近に感じる機会が十分でないことが考えられる。静岡市文化財保存活用計画(2024年12月策定)に基づき、地域住民や、所有者、事業者とともに文化財の活用を進め、また来訪者のターゲットに応じた楽しく分かりやすい情報提供をすることにより、市民や来訪者が文化財に親しむ機会を増やすことで指標を向上させたい。
取組方針5	①	ウェブサイト「しぜんたんけんてちょう」の閲覧数	向上 53,257件 (2021年)	63,000件	71,000件	79,138件	◎	79,636件	◎	市や市民団体の主催事業に関する情報や活動レポートを掲載し、目標を達成した。引き続き情報発信を積極的に行い、ウェブサイトの内容を充実させる。
	②	環境学習指導員派遣事業の派遣人数	向上 188人	220人	220人	214人	○	220人	◎	予定どおり実施し、目標を達成した。現在、派遣回数が多い指導員は徐々に高齢化しており、若手指導員の育成が必要であることから、指導員入門講座を開催するとともに、指導員全体のスキルアップのための研修を実施する。
	③	環境に関するボランティア活動参加割合	向上 26.2% (2022年)	26.6%	27.0%	31.00%	◎	24.20%	○	令和7年度「市民意識調査」において、この1年間に環境に関するボランティア活動(清掃活動・環境保護活動など)に参加したと答えた人の割合は目標値に満たなかったが、河川や海岸で実施する大規模な美化活動が天候不良等により複数中止になったことが要因の一つと考えられること、直近2年度は目標を達成していることを考慮して評価は○とする。

第3次静岡市環境基本計画
環境指標進捗状況 個票
(令和7年度末時点)

取組方針	経済・社会・環境の三側面の好循環を生み出す地域脱炭素の基盤整備を進めます
------	--------------------------------------

項目 1-①					
指標名	温室効果ガス排出量の削減率(2013年度比)				
指標値	51.0%	時点	目標年度	方向性	削減
目標	目標年度における温室効果ガス削減率51%の達成				

指標の内容	定義	経済産業省資源エネルギー庁が公表している総合エネルギー統計等の公表データを生産額や従業員数等で按分して算定
	概要	民生部門、産業部門における温室効果ガス排出量を削減するため、市民及び事業者に対する、省エネルギーに関する普及啓発や省エネルギー設備等の導入促進等によって、エネルギー使用量の削減を促す。 【代表的な取組み】 ・普及啓発 市民等の省エネルギーに関する理解や取組みの促進のため、様々な主体と連携し啓発活動を実施している。 ※令和5年度実施例 清水エスパルスと連携した「COOL CHOICE」の普及啓発 コジマ×ビックカメラ静岡店、三菱電気株式会社静岡製作所と連携した普及啓発 次世代エネルギーパーク見学 クールビズ、ウォームビズ 等 ・事業者への支援 中小企業者脱炭素化支援事業 市内の中小企業者を対象として、静岡商工会議所との連携のもと、脱炭素化に向けた取組の相談、セミナーの開催、ベンダーとのマッチング等など、総合相談支援事業を実施する民間事業者に対し、事業に係る経費の一部を補助する。 エコアクション21取得事業者支援事業 事業者による自主的な廃棄物抑制や環境負荷低減のための取組みを促進するため、エコアクション21取得のためのセミナーの開催や取得事業者に対する補助金交付を実施

報告	計画	2021年度 (基準年)	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度 (中間年度)	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度 (目標年度)
		14.6%	17.5%	20.3%	23.2%	26.0%	31%	36%	43%	51.0%
	実績		(2021年度実績値: 9.6%)	(2022年度実績値: 15.4%)	(2023年度実績値: 25.2%)					
	進捗		○	○	△					

【進捗状況凡例】◎: 達成(最終目標) ○: 達成見込み △: 要調整 ×: 達成困難 —: 中止

考察	＜評価に対する考察＞(評価△・×…理由とその改善点 ◎・○…理由、特に工夫した点 —…中止の詳細 を記載)
	2023年度実績は25.2%削減となり、中間目標に近づいているが、2030年度目標達成にはさらなる削減対策の強化が必要である。今後は、部門別分析を踏まえ、産業・運輸部門を中心に取組を強化する。 ＜第3次計画期間の総括評価、今後の取組み＞

取組方針	経済・社会・環境の三側面の好循環を生み出す地域脱炭素の基盤整備を進めます
------	--------------------------------------

項目 1-②					
指標名	市内の電力消費量に対する市内の再生可能エネルギーの発電量の割合				
指標値	50.0%	時点	目標年度	方向性	向上
目標	目標年度における50%の達成				

指標の内容	定義	「(太陽光、風力、バイオマス、中水力発電量の和)/(市内の電力消費量)」から算定
	概要	- 再生可能エネルギーに関する環境教育の実施 市内の市有、民有の再生可能エネルギー設備を用いた見学会の開催や見学ルートの設定、周知等により、再生可能エネルギーに対する理解の促進を図る。 【静岡市次世代エネルギーパーク】 日本平動物園を「中心施設」として、市域全体が、経産省(エネ庁)が認定する「次世代エネルギーパーク」として認定されている。(平成26年10月～) - 家庭、事業所、公共施設等への普及 公共施設への率先した再生可能エネルギー設備の導入や、国や県の補助事業に関する情報発信等を通して、市域への再生可能エネルギーの導入を促進する。また、令和3年度からZEH建築等支援事業を開始した。 - 再生可能エネルギーによる地域振興の検討 市民や事業者との協働により、中山間地等における再生可能エネルギーを活用した地域活性化の取組みを支援する。

報告	計画	2021年度 (基準年)	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度 (中間年度)	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度 (目標年度)
		25.2%	26%	28%	30%	33.0%	36%	40%	44%	50.0%
	実績	/	25.30%	28.1%	28.0%					
	進捗		○	○	△					

【進捗状況凡例】◎:達成(最終目標) ○:達成見込み △:要調整 ×:達成困難 —:中止

考察	<評価に対する考察>(評価△・×…理由とその改善点 ◎・○…理由、特に工夫した点 —…中止の詳細 を記載) 再生可能エネルギーの導入容量は増加しているものの、電力消費量の増加により割合は横ばいで推移している。今後は、再生可能エネルギーの導入拡大と省エネルギーの推進を図る。 <第3次計画期間の総括評価、今後の取組み>
----	---

取組方針	経済・社会・環境の三側面の好循環を生み出す地域脱炭素の基盤整備を進めます
------	--------------------------------------

項目 1-③

指標名	次世代自動車(EV・PHV・FCV)の普及台数				
指標値	78,000台	時点	目標年度	方向性	向上
目標	目標年度における78,000台普及の達成				

指標の内容	定義	EV・PHVは「静岡県自動車保有台数調査」/ FCVはFCVを取り扱う市内自動車メーカーへのヒアリング を参考に算出
	概要	普及啓発活動や優遇制度を活用し、次世代自動車の普及拡大を図る。 【代表的な取組】 ・イベント開催時の車両展示 ・各種イベント時において、EV及びFCVの給電デモンストレーションを実施 ・静岡市水素エネルギー利活用促進協議会 ・運輸部門に関わる自動車メーカーや市内企業などが参画する協議会を設置し、普及拡大に向けた検討を行っている ・水素ステーションの整備 ・FCVの試乗モニター制度

報告	計画	2021年度 (基準年)	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度 (中間年度)	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度 (目標年度)
		2,054台	4,535台	9,020台	15,509台	24,000台	34,495台	49,994台	61,496台	78,000台
	実績	/	3,306台	3,700台	調査中					
	進捗		○	△						

【進捗状況凡例】◎:達成(最終目標) ○:達成見込み △:要調整 ×:達成困難 —:中止

考察	<評価に対する考察>(評価△・×…理由とその改善点 ◎・○…理由、特に工夫した点 —…中止の詳細 を記載)
	2024年度実績は3,700台にとどまり、目標達成には更なる普及拡大が必要である。今後は、充電インフラの整備促進や支援制度の活用を図るとともに、公用車での導入に加え、市民及び事業者による次世代自動車への転換を促進する。 <第3次計画期間の総括評価、今後の取組み>

取組方針	経済・社会・環境の三側面の好循環を生み出す地域脱炭素の基盤整備を進めます
------	--------------------------------------

項目 1-④

指標名	市民の気候変動への「適応策」の認知度				
指標値	40.0%	時点	目標年度	方向性	向上
目標	目標年度における認知度40%の達成				

指標の内容	定義	市民意識調査により「適応策」の認知度を算出
	概要	※「適応策」とは、最大限の温暖化対策を施しても避けられない気候変動の影響(2℃の平均気温上昇に伴う影響:短時間強雨の増加、農作物の適地変化、熱中症の増加など)に対して、人間社会が進化・適応していく考え方(水害ハザードマップの作成、高気温に耐性を持つ品種の開発など)。基本的に既に実施している施策の延長であることが多い。 ●熱中症対策の実施 クーリングシェルターの指定・運用 熱中症警戒アラート運用期間における情報発信等の対応 ●気候変動適応関東広域協議会への参加 ●出前講座やブース出展等による適応策の普及啓発 ●気候変動適応情報プラットフォームへの参画 国立研究開発法人国立環境研究所の主宰する同団体への登録により、最新情報の収集を行っている

報告	計画	2021年度 (基準年)	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度 (中間年度)	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度 (目標年度)
		25.3%	26%	28%	30%	32%	34%	36%	38%	40%
	実績		27%	23%	35%					
	進捗		○	○	○					

【進捗状況凡例】◎:達成(最終目標) ○:達成見込み △:要調整 ×:達成困難 —:中止

考察	<評価に対する考察>(評価△・×…理由とその改善点 ◎・○…理由、特に工夫した点 —…中止の詳細 を記載) 適応策の認知度は増加傾向にあるため、引き続き熱中症対策など比較的市民の関心の高い取組と絡めて情報発信していくことで、適応策の認知度を高めていく。 <第3次計画期間の総括評価、今後の取組み>
----	---

取組方針	循環型社会を目指した廃棄物政策を推進します
------	-----------------------

項目 2-①					
指標名	一人1日当たりのごみ総排出量				
指標値	783g/人・日以下	時点	目標年度	方向性	削減
目標	廃棄物のさらなる減量により、循環型社会の形成を図ること				

指標の内容	定義	「ごみ焼却施設への年間搬入量」／「(人口×365(うるう年は366))」により算出
	概要	4R(①発生抑制(Refuse)②排出抑制(Reduce)③再使用(Reuse)④再生利用(Recycle)を一言で表す言葉「もったいない」をキーワードに掲げ、市民・事業者・行政がそれぞれの役割と責任を認識し、協働して各種ごみ減量施策を推進する。 【代表的な取組】 ・静岡版「もったいない運動」の推進 ・資源循環啓発施設を中心とした環境教育の推進 ・事業系ごみの減量化・資源化の推進 ・多量排出事業所への立入調査、減量化計画書の提出、管理責任者の選任を指導

報告	計画	2019年度 (基準年)	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度 (中間年度)	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度 (目標年度)
		928g/人・日	875g/人・日	862g/人・日	850g/人・日	836g/人・日	822g/人・日	810g/人・日	796g/人・日	783g/人・日
	実績		842g/人・日	820g/人・日	801g/人・日					
	進捗		○	○	○					

【進捗状況凡例】◎:達成(最終目標) ○:達成見込み △:要調整 ×:達成困難 ー:中止

考察	<評価に対する考察>(評価△・×…理由とその改善点 ◎・○…理由、特に工夫した点 ―…中止の詳細 を記載) 計画どおりの進捗である。今後、食品ロス、生ごみの削減に向けた取組の強化、プラスチックごみの分別回収などの施策の実施により、ごみの減量化を更に進めていく。2030年度までに目標を達成する見込みである。 <第3次計画期間の総括評価、今後の取組>
----	---

取組方針	循環型社会を目指した廃棄物政策を推進します
------	-----------------------

項目 2-②					
指標名	一人1日当たりの家庭ごみ総排出量				
指標値	549g/人・日以下	時点	目標年度	方向性	削減
目標	廃棄物のさらなる減量により、循環型社会の形成を図ること				

指標の内容	定義	「家庭系可燃ごみ、家庭系不燃粗大ごみ、家庭系資源ごみ及び集団回収の合計」／「(人口×365(うるう年は366))」により算出
	概要	4R(①発生抑制(Refuse)②排出抑制(Reduce)③再使用(Reuse)④再生利用(Recycle)を一言で表す言葉「もったいない」をキーワードに掲げ、市民・事業者・行政がそれぞれの役割と責任を認識し、協働して各種ごみ減量施策を推進する。 【代表的な取組】 ・静岡版「もったいない運動」の推進 ・資源循環啓発施設を中心とした環境教育の推進 ・事業系ごみの減量化・資源化の推進 ・多量排出事業所への立入調査、減量化計画書の提出、管理責任者の選任を指導

報告	計画	2019年度 (基準年)	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度 (中間年度)	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度 (目標年度)
		661g/人・日	620g/人・日	610g/人・日	600g/人・日	590g/人・日	580g/人・日	569g/人・日	559g/人・日	549g/人・日
	実績		596g/人・日	582g/人・日	571g/人・日					
	進捗		○	○	○					

【進捗状況凡例】◎:達成(最終目標) ○:達成見込み △:要調整 ×:達成困難 ー:中止

考察	<評価に対する考察>(評価△・×…理由とその改善点 ◎・○…理由、特に工夫した点 ―…中止の詳細)を記載) 計画どおりの進捗である。今後、食品ロス、生ごみの削減に向けた取組の強化、プラスチックごみの分別回収などの施策の実施により、ごみの減量化を更に進めていく。2030年度までに目標を達成する見込みである。 <第3次計画期間の総括評価、今後の取組>
----	---

取組方針	循環型社会を目指した廃棄物政策を推進します
------	-----------------------

項目 2-③					
指標名	事業系ごみの総排出量(総量)				
指標値	55,300t	時点	目標年度	方向性	削減
目標	廃棄物のさらなる減量により、循環型社会の形成を図ること				

指標の内容	定義	ごみ焼却施設への事業系ごみの年間搬入量
	概要	4R(①発生抑制(Refuse)②排出抑制(Reduce)③再使用(Reuse)④再生利用(Recycle)を一言で表す言葉「もったいない」をキーワードに掲げ、市民・事業者・行政がそれぞれの役割と責任を認識し、協働して各種ごみ減量施策を推進する。 【代表的な取組】 ・静岡版「もったいない運動」の推進 ・資源循環啓発施設を中心とした環境教育の推進 ・事業系ごみの減量化・資源化の推進 ・多量排出事業所への立入調査、減量化計画書の提出、管理責任者の選任を指導

報告	計画	2019年度 (基準年)	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度 (中間年度)	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度 (目標年度)
		68,272t	63,555t	62,376t	61,197t	60,017t	58,838t	57,659t	56,480t	55,300t
	実績		61,029t	58,223t	56,041t					
	進捗		○	○	○					

【進捗状況凡例】◎:達成(最終目標) ○:達成見込み △:要調整 ×:達成困難 ー:中止

考察	<評価に対する考察>(評価△・×…理由とその改善点 ◎・○…理由、特に工夫した点 ―…中止の詳細 を記載) 計画どおりの進捗である。今後、一般廃棄物多量排出事業者に対するごみの減量化に関する指導を実施していく。2030年度までに目標を達成する見込である。 <第3次計画期間の総括評価、今後の取組>
----	---

					項目	3-①
指標名	南アルプスの主要地域の高山植物種数					
指標値	37種	時点	目標年度	方向性	維持	
目標	南アルプスの自然環境・生態系の保全を推進し、地域資源や生態系サービスの基盤としての自然環境を、次世代へ受け継いでいくこと					

※()内は、基準年度に確認された15種のうち、各年度でも発見された種数

【進捗状況凡例】◎:達成(最終目標) ○:達成見込み △:要調整 ×:達成困難 -:中止

考 察	＜評価に対する考察＞（評価△・×…理由とその改善点 ◎・○…理由、特に工夫した点 ―…中止の詳細 を記載） 千枚小屋周辺防鹿柵内の高山植物種数は、調査時期の違いにより多少の差異が見られるが、35種から40種の間で安定して確認できている。 ＜第3次計画期間の総括評価、今後の取組み＞

☆防鹿柵内（外）植生調査によって発見された種リスト

- ・調査日 8月下旬（R7のみ8月中旬） 38種以上が目標
- ・調査場所 県営千枚小屋裏（斜面上下部）、県営千枚小屋東湿性池

別紙

科名	種名	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
タデ	イブキトラノオ	○	○	○	○
	タカネスイバ	○	○	○	○
キンボウゲ	ホソバトリカブト	○	○	○	○
	サンリンソウ	○	○	○	○
	サラシナショウマ	○	○	○	○
	ミヤマキンボウゲ	○	○	○	○
	カラマツソウ	○	○	○	○
	シナノキンバイ	○	○	○	○
	ミヤマオダマキ	○	—	—	—
メギ	サンカヨウ	—	—	—	—
オトギリソウ	シナノオトギリ	○	○	○	○
フウロソウ	タカネグンナイフウロ	○	○	○	○
	ハクサンフウロ	○	○	○	○
スミレ	キバナノコマノツメ	○	○	○	○
アカバナ	イワアカバナ	○	○	○	—
	ケゴンアカバナ	—	—	—	○
セリ	ミヤマシシウド	○	○	○	○
	ミヤマセンキュウ	○	○	○	○
サクラソウ	オオサクラソウ	—	—	—	—
ゴマノハグサ	トモエシオガマ	○	—	—	○
	エゾシオガマ	○	○	○	○
キク	オオヨモギ	○	○	○	○
	コウモリソウ	○	○	○	○
	センジョウアザミ	○	○	○	○
	マルバダケブキ	○	○	○	○
	ミヤマコウゾリナ	—	—	—	—
	タカネヒゴタイ	○	○	○	○
	ミヤマアキノキリンソウ	○	—	○	—
	ヤマハハコ	—	○	○	—
ユリ	マイヅルソウ	—	○	○	○
	オオバタケシマラン	○	○	○	○
	バイケイソウ	○	○	○	○
	クルマユリ	—	○	○	—
イネ	イワノガリヤス	—	○	○	○
	コメススキ	○	○	○	○
	タカネノガリヤス	○	○	○	○
	ミヤマドジョウツナギ	○	○	○	○
	イブキヌカボ	○	—	—	—
	ハクサンイチゴツナギ	○	○	○	○
	カラフトドジョウツナギ	—	—	—	—
	フサガヤ	○	—	—	—
イグサ	ミヤマヌカボシソウ	○	○	○	○
アブラナ	ヤマハタザオ	—	○	○	—
ナデシコ	タカネナデシコ	—	—	—	—
イワデンダ	ミヤマメシダ	○	○	○	○
ラン	ハクサンチドリ	○	—	—	—
	ミヤマチドリ	—	○	○	—
	ホザキイチヨウラン	—	—	○	—
ハナヤスリ	ハナワラビ属の一種	—	○	○	○
カヤツリグサ	スゲ属植物※1	○※1	○※1	○※1	○※1
	（ヒメスゲ※1）	○	○	○	○
	（キイトスゲ※1）	○	○	○	○
発見種数		37種	38種	40種	35種

※1 基準年度（平成25年度）に確認された「スゲ属植物」については、種名の特定ができていないため、同じスゲ属に属する種の確認状況により、保全状況を推計している。

取組方針	生物多様性への理解・浸透を図り、保全・再生を拡大します
------	-----------------------------

項目 3-②

指標名	竹破砕機の延べ貸出回数				
指標値	80回	時点	目標年度	方向性	向上
目標	竹破砕機の貸出により保全活動団体を継続的に支援することで、団体の活動の継続を図る。				

指標の内容	定義	市内の放任竹林対策として竹林の伐採整備を行う団体に対し、自走式破砕機の貸出を行った回数。
	概要	【実施主体】静岡市(環境共生課) 【事業内容】 ①破砕機:6台(大岩車庫にて保管) ②貸出:借用申請書の受理により貸出 ※最大15日間/回 ③貸出要件:放任竹林の整備を行う保全活動団体等(個人不可) 事前に「自走式竹破砕機安全運転講習会」を受講していること

報告	計画	2019年度 (基準年)	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度 (中間年度)	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度 (目標年度)
		76回 (2019-2021 年平均)	80回	80回	80回	80回	80回	80回	80回	80回
	実績		63回	75回	86回					
	進捗		△	○	◎					

【進捗状況凡例】◎:達成(最終目標) ○:達成見込み △:要調整 ×:達成困難 —:中止

考察	<評価に対する考察>(評価△・×…理由とその改善点 ◎・○…理由、特に工夫した点 —…中止の詳細 を記載) 老朽化した破砕機1台を更新したことで不具合を起こすことが減少し、年間を通じて安定して貸し出すことができた。今後も、耐用年数を過ぎた機械から順次更新予定。 <第3次計画期間の総括評価、今後の取組み>

取組方針	生物多様性への理解・浸透を図り、保全・再生を拡大します			
------	-----------------------------	--	--	--

項目 **3-③**

指標名	河川環境アドプトプログラムの登録団体の延べ活動回数			
指標値	100回	時点	目標年度	方向性
目標	持続可能な自然の利活用の推進により、自然環境の保全に主体的に取り組む人材を育むこと			

指標の内容	定義	安倍川・藁科川・興津川での清掃活動を通じ、市民の環境保全意識の向上を図る、「河川環境アドプトプログラム」の登録団体の延べ活動回数を集計		
	概要	市民ボランティアの参加による環境保全事業を実施するとともに、環境教育や普及啓発等の「伝える活動」により、こうした環境保全活動に主体的に参加する人や、将来の活動を担う人材の育成を図る。 【代表的な取組み】 ・環境ボランティア事業の実施 興津川クリーン作戦、玉川クリーン作戦、藁科川クリーン作戦、河川環境アドプト事業、高山植物保護セミナーを継続して実施している。 - 各事業実施にあたっては、広報誌やWEBサイト等を活用し広く周知するとともに、市内の事業者等に協力を呼びかけ、多様な主体から多くの参加者を募っている。 ・環境保全に関わる人材育成 地域や学校等における環境教育や、環境保全活動を率先して行うリーダーの育成等を継続的にを行い、主体的に環境ボランティアなどの活動に参加する「人づくり」を推進している。		

報告	計画	2019年度 (基準年)	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度 (中間年度)	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度 (目標年度)
		69回 (2019-2021 年平均)	100回	100回	100回	100回	100回	100回	100回	100回
	実績	△	50回	75回	68回					
	進捗		△	△	△					
	参考	活動者数	784人	1,369人	914人					
		活動団体数	24団体	36団体	33団体					

【進捗状況凡例】◎:達成(最終目標) ○:達成見込み △:要調整 ×:達成困難 —:中止

考察	<評価に対する考察>(評価△・×…理由とその改善点 ◎・○…理由、特に工夫した点 —…中止の詳細 を記載) 猛暑や天候不良による活動機会の減少や、活動開始当初と比較して河川のゴミが減少したこと等により、延べ活動回数の減少が見られる。今後は、活動の担い手が少ない区間への移動や、ゴミ拾い以外の河川美化活動を提案し、意欲のある団体の活動継続をサポートする。 <第3次計画期間の総括評価、今後の取組み>			

取組方針	生物多様性への理解・浸透を図り、保全・再生を拡大します
------	-----------------------------

項目 3-④				
指標名	水生生物調査(水のおまわりさん)の参加者数			
指標値	1,200名	時点	目標年度	方向性 向上
目標	市民調査員による河川の水質調査を通して、市民の身近な河川環境に対する関心喚起と環境保全意識の高揚を図るとともに、市内の水生生物の生息状況を把握する。			

指標の内容	定義	「水のおまわりさん」に参加した人数を集計
	概要	【実施主体】市民調査員(毎年応募) 【事業内容】 ①調査方法:「簡易水質検査」(水質を色で判定する試薬を用いた調査) 「水生生物調査」(指標生物の種類や数を調べる調査) ②調査場所:市内の河川 ③対象者 :小学生以上 ④調査結果:報告書の一覧表を市のHPで公表 ⑤費用 :調査キットは市が購入 ※関連事業:「全国水生生物調査」(環境省・国土交通省)

報告	計画	2019年度 (基準年)	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度 (中間年度)	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度 (目標年度)
		1,177名 (2019-2021年平均)	1,000名	1,000名	1,000名	1,200名	1,200名	1,200名	1,200名	1,200名
	実績		977名	655名	1,102名					
	進捗		○	△	○					

【進捗状況凡例】◎:達成(最終目標) ○:達成見込み △:要調整 ×:達成困難 -:中止

考察	<評価に対する考察>(評価△・×…理由とその改善点 ◎・○…理由、特に工夫した点 ―…中止の詳細 を記載) 学校単位の大規模団体の減少や、夏の猛暑の影響で参加者数が減少していたが、2025(令和7)年度は、過去に応募があった団体に周知を行うとともに、活動期間を10月末から11月末に延長したことで参加者数が回復した。 <第3次計画期間の総括評価、今後の取組み>

取組方針		住み良さを実感できる生活環境をつくります										
		項目 4-①										
指標名		事業者の公害法令順守率										
指標値		93%	時点	目標年度	方向性	向上						
目標		市民が豊かな環境からの恵みを享受する基盤となる、「安心・安全な生活環境」の確保と充実を図ること										
指標の内容	定義	「立入調査によって、大気(ばい煙、ダイオキシン、VOC)、水質に関する排出基準等の順守が確認された事業所数」／「立入調査を行った事業所数」により算出										
	概要	第3次静岡市環境基本計画に掲げる「安心・安全な生活環境の確保と充実」を実現するため、事業者による公害法令の順守を徹底し、市民の健康に悪影響を及ぼす要因を排除する。 【代表的な取組み】 ・事業者等への定期的な立入調査、指導による適正管理の推進 立入調査対象の全事業者に対する立入調査の実施(3～5年で全事業者1周を目途) 違反のあった事業者に対しては、継続して調査、指導を実施 ・化学物質の排出に係る、届出の受理及び審査、排出量や移動量の公表 ・事業所の環境保全対策への取組み支援 ※ 長期的には、「法令順守率100%」の達成を目指しているが、 本計画の期間中における現実的な成果指標として、順守率の改善を前提とした目標値を設定している。										
報告	計画	2019年度 (基準年)	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度 (中間年度)	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度 (目標年度)		
		91.8%	－	－	－	92.4%	－	－	－	93.0%		
	実績	進捗		95.5%	96.4%	96.6%						
				◎	◎	◎						
	参考	公害苦情の件数										
				2019年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度
		悪臭	事業活動	23件	20件	29件	17件					
			上記以外	7件	5件	3件	20件					
		騒音	事業活動	53件	65件	77件	49件					
			上記以外	19件	4件	12件	10件					
振動	事業活動	2件	10件	5件	6件							
	上記以外	0件	0件	1件	2件							
【進捗状況凡例】◎:達成(最終目標) ○:達成見込み △:要調整 ×:達成困難 ー:中止												
考察	<評価に対する考察>(評価△・×…理由とその改善点 ◎・○…理由、特に工夫した点 ー…中止の詳細 を記載)											
	計画を上回る進捗である。立入調査対象の全事業所に計画的かつ定期的に立入調査を実施することにより、事業者へ法令順守徹底の働きかけを行うことができた。引き続き法令順守率の向上を目指した取組を行っていく。											
	<第3次計画期間の総括評価、今後の取組み>											

取組方針	住み良さを実感できる生活環境をつくります
------	----------------------

項目 4-②					
指標名	生活排水処理率				
指標値	92.6%	時点	目標年度	方向性	向上
目標	健全な市民生活の基礎である、良質な水環境の保全を推進すること				

指標の内容	定義	「公共下水道への接続人口＋農業集落排水への接続人口＋合併処理浄化槽の推計使用人口」／「市の人口」により算出
	概要	健全な水環境の確保と清らかな河川を保全するために、地域の実情に応じた効率的かつ適正な処理区域を設定し、汚水処理事業の整備を推進する。 【代表的な取組み】 ・下水道事業計画区域内の公共下水道の整備推進 ・下水道供用開始区域内における公共下水道への接続促進 ・浄化槽整備区域における合併処理浄化槽の整備推進 ・浄化槽設置整備事業補助金による単独処理浄化槽等から合併処理浄化槽への転換促進

報告	計画	2021年度 (基準年)	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度 (中間年度)	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度 (目標年度)		
		86.4%	87.9	88.6	89.4	90.1%	90.7%	91.3%	91.9%	92.6%		
	実績		88.4%	88.9%	89.4%							
			進捗	○	○	○						
	参考	指標内訳										
				2021年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度
		下水道		78.1%	80.4%	80.9%	81.5%					
		農業集落排水		0.5%	0.5%	0.5%	0.4%					
		合併処理浄化槽		7.8%	7.6%	7.5%	7.5%					

【進捗状況凡例】◎:達成(最終目標) ○:達成見込み △:要調整 ×:達成困難 ー:中止

考察	＜評価に対する考察＞(評価△・×…理由とその改善点 ◎・○…理由、特に工夫した点 ー…中止の詳細 を記載)
	生活排水処理率は、前年比+0.5ポイントかつ2025年度目標(89.4%)を達成し、最終目標に向けて順調に推移していることから、達成見込みとした。 ＜第3次計画期間の総括評価、今後の取組み＞

取組方針	住み良さを実感できる生活環境をつくります			
------	----------------------	--	--	--

項目 4-③				
指標名	市民一人当たりの都市公園面積(都市計画区域)			
指標値	7.4㎡	時点	目標年度	方向性 向上
目標	緑あふれる美しいまちを創出し、都市環境及び市民の生活環境の向上を図ること			

指標の内容	定義	「都市計画区域内における公園面積」／「都市計画区域内における人口」により算出		
	概要	「静岡市みどりの基本計画」に基づく計画的な公園整備を進めることで、市民のWell-beingの向上に寄与する。 【代表的な取組み】 ・「みどりの基本計画」に基づく計画的な公園の整備 ・「みどりの基本計画」に基づく「みどり」の保全、利活用及び維持管理の推進		

報告	計画	2019年度 (基準年)	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度 (中間年度)	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度 (目標年度)
		7.0㎡	-	-	-	7.2㎡	-	-	-	7.4㎡
	実績		7.29㎡	7.36㎡	7.45㎡					
	進捗		○	○	◎					

【進捗状況凡例】◎:達成(最終目標) ○:達成見込み △:要調整 ×:達成困難 -:中止

考察	<評価に対する考察>(評価△・×…理由とその改善点 ◎・○…理由、特に工夫した点 —…中止の詳細 を記載) 新規公園開設や供用区域の増により、市民一人当たりの都市公園面積は増となった。 <第3次計画期間の総括評価、今後の取組み>			

取組方針	住み良さを実感できる生活環境をつくります			
------	----------------------	--	--	--

項目 4-④				
指標名	静岡市は歴史・伝統文化や地域の魅力が感じられるまちだと思ふ人の割合			
指標値	70.0%	時点	目標年度	方向性 向上
目標	静岡市の文化財が活用され「市民の財産」として未来に継承される			

指標の内容	定義	文化財を保存するだけでなく、積極的に活用し、市内外に発信することにより、本市が歴史・伝統文化や地域の魅力が感じられるまちだと思ふ市民の割合を増やす。
	概要	・令和7年度に施行した「静岡市文化財保存活用地域計画」の目指す将来像のとおり「静岡市の文化財が活用され「市民の財産」として未来に継承される」よう、文化財の積極的な活用を図る。 ・「文化財展」、「文化財特別公開」、「大神楽祭」を実施し、本市の文化財や神楽などの民俗芸能を公開した。 ・三保松原の景観を守り来訪者の安全を確保するため、マツ材線虫病の防除、羽衣の松・神の道周辺の老齢大木の倒伏防止と樹勢回復、園場でのマツ苗の育成、みほしるべでの企画展(年3回)などを実施した。

報告	計画	2022年度 (基準年)	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度 (中間年度)	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度 (目標年度)
		58.9%	—			66.0%				70.0%
	実績	—	—	—	58.1%					
	進捗		○	○	△					

【進捗状況凡例】◎:達成(最終目標) ○:達成見込み △:要調整 ×:達成困難 —:中止

考察	＜評価に対する考察＞(評価△・×…理由とその改善点 ◎・○…理由、特に工夫した点 —…中止の詳細 を記載)
	市内には文化財や歴史資源は多く存在するが、市民がその魅力を身近に感じる機会が十分でないことが考えられる。静岡市文化財保存活用計画(2024年12月策定)に基づき、地域住民や、所有者、事業者とともに文化財の活用を進め、また来訪者のターゲットに応じた楽しく分かりやすい情報提供をすることにより、市民や来訪者が文化財に親しむ機会を増やすことで指標を向上させたい。 ＜第3次計画期間の総括評価、今後の取組み＞

取組方針	環境教育を通じて、環境活動の輪を広げます
------	----------------------

項目 5-①

指標名	ウェブサイト「しぜんたんけんてちょう」の閲覧数				
指標値	71,000件	時点	目標年度	方向性	向上
目標	外来生物に関する情報の発信等により、市民の生物多様性への理解の推進を図る。				

指標の内容	定義	ウェブサイト「しぜんたんけんてちょう」の閲覧者数を集計
	概要	【事業内容】 ◆しぜんたんけんてちょうの活用 ①掲載時期: 通年 ②掲載内容: ・外来生物の生態や特徴 ・外来生物発見情報 ・市民参加型調査等の募集 ・自然観察会等イベント情報 ・市民による生きものの発見情報の投稿 ・外来生物の駆除方法の紹介 ※各種イベントやチラシ、パンフレット等でしぜんたんけんてちょうを紹介する。

報告	計画	2021年度 (基準年)	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度 (中間年度)	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度 (目標年度)
		53,257件	55,000件	59,000件	63,000件	63,000件	65,000件	67,000件	69,000件	71,000件
	実績		81,466件	79,138件	79,636件					
	進捗		◎	◎	◎					

【進捗状況凡例】◎: 達成(最終目標) ○: 達成見込み △: 要調整 ×: 達成困難 —: 中止

考察	<評価に対する考察> (評価△・×…理由とその改善点 ◎・○…理由、特に工夫した点 —…中止の詳細 を記載) 市や市民団体の主催事業に関する情報や活動レポートを掲載し、目標を達成した。引き続き情報発信を積極的に行い、ウェブサイトの内容を充実させる。 <第3次計画期間の総括評価、今後の取組み>

取組方針	環境教育を通じて、環境活動の輪を広げます
------	----------------------

項目 5-②

指標名	環境学習指導員派遣事業の派遣人数				
指標値	220人	時点	目標年度	方向性	向上
目標	市民活動団体や学校、子ども会、児童クラブ、自治会・町内会等が行う環境学習会に対し、講師として静岡市の環境学習指導員を派遣することで、あらゆる場での環境教育の充実を図る。				

指標の内容	定義	こども園や小学校等が行う環境学習会に対し、環境学習指導員を派遣した回数を集計
	概要	【実施主体】静岡市（環境共生課）、受託者（指導員の選定、調整、謝金支払） 【事業内容】 ①時期：通年（1団体あたり年2回まで） ②場所：市内の希望する場所（川、池、公園、学校等） ③内容：身近な場所での自然観察会、環境問題についての講義等 ④対象：こども園、学校（小中学校等）、児童クラブ、自治会・町内会等 ⑤費用：講師に係る謝金は市が負担

報告	計画	2019年度 (基準年)	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度 (中間年度)	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度 (目標年度)
		188人	220人	220人	220人	220人	220人	220人	220人	220人
	実績		198人	214人	220人					
	進捗		○	○	◎					

【進捗状況凡例】◎：達成(最終目標) ○：達成見込み △：要調整 ×：達成困難 —：中止

考察	＜評価に対する考察＞（評価△・×…理由とその改善点 ◎・○…理由、特に工夫した点 —…中止の詳細 を記載）
	予定どおり実施し、目標を達成した。現在、派遣回数が多い指導員は徐々に高齢化しており、若手指導員の育成が必要であることから、指導員入門講座を開催するとともに、指導員全体のスキルアップのための研修を実施する。 ＜第3次計画期間の総括評価、今後の取組み＞

取組方針	環境教育を通じて、環境活動の輪を広げます
------	----------------------

項目 5-③

指標名	環境に関するボランティア活動参加割合				
指標値	27.0%	時点	目標年度	方向性	向上
目標	環境に関するボランティアに参加する割合を増やし、自然や暮らしの環境を守る次世代の担い手を育成する。				

指標の内容	定義	目標年度におけるボランティア活動の参加割合
	概要	●持続可能な自然の利活用の推進 各種自然環境に係る学習会・イベント等の実施 ●自然を守る人材の育成 放任竹林対策事業・・・里地里山を利用した学習会やイベント、竹林整備隊を活用した保全活動など 清流保全事業・・・河川環境アドプトプログラム、自然環境アドプトプログラムなど

報告	計画	2022年度 (基準年)	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度 (中間年度)	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度 (目標年度)
		26.2%	26.3%	26.4%	26.5%	26.6%	26.7%	26.8%	26.9%	27.0%
	実績		27.5%	31.00%	24.20%					
	進捗		◎	◎	○					

【進捗状況凡例】◎:達成(最終目標) ○:達成見込み △:要調整 ×:達成困難 —:中止

考察	<評価に対する考察>(評価△・×…理由とその改善点 ◎・○…理由、特に工夫した点 —…中止の詳細 を記載) 令和7年度「市民意識調査」において、この1年間に環境に関するボランティア活動(清掃活動・環境保護活動など)に参加したと答えた人の割合は目標値に満たなかったが、河川や海岸で実施する大規模な美化活動が天候不良等により複数中止になったことが要因の一つと考えられること、直近2年度は目標を達成していることを考慮して評価は○とする。 <第3次計画期間の総括評価、今後の取組み>